

『雑木伐採作業中の事故』が連続発生！！ 車道際での作業は、特に注意が必要！！

【事件事例①】

伐倒した木に接触し、擁壁上から転落！！

◇事故の概要 [道路維持作業]

一般国道での維持作業において、車線規制を行い法面にある雑木の伐倒作業を行っていた。伐木にロープを掛け、バックホウで引きながらチェーンソーで切断作業をしていたところ、この伐木が根本から裂けるように折れて、予想外の方向に倒れた。

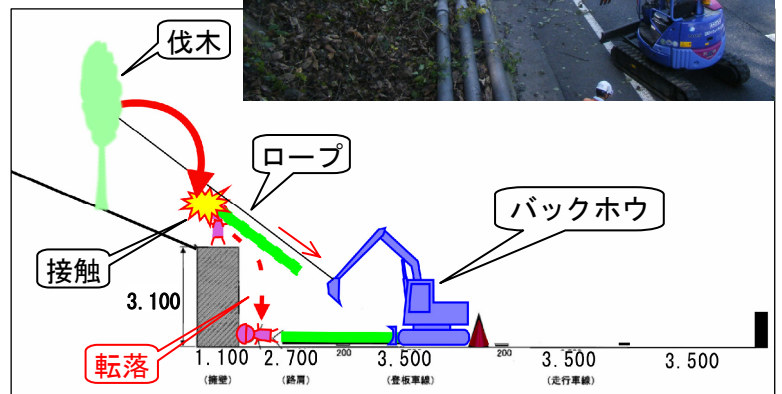
擁壁の上で作業を見守っていた作業員が、倒れてきた伐木に接触し、3 m下の路面に転落し負傷した。

△事故の原因

- ・ 伐木が予想外の方向に倒れる場合を考えていなかった。
- ・ 作業員がバックホウの作業エリア内に進入してしまった。
- ・ 根本に切込みを入れずにバックホウで強く引き倒そうとしたことも要因である。
- ・ 高所作業（H=3.1 m）にもかかわらず、墜落防止設備（手摺り、安全带、親綱等）を配置していなかった。

☆事故防止対策（案）

- 退避場所は、伐倒方向の反対側で樹高の1.5倍以上離れた場所に退避する。
- 伐木する時は、予め伐倒方向を決め、根本に切込みを入れる。
- 伐倒は他の作業員が安全な場所に退避したことを確認し合図する。
- 高所作業では、手摺り又は親綱等を取付け、安全带を使用するなど墜落防止措置を行う。



【事件事例②】

伐倒した木が一般車を直撃！！

◇事故の概要 [道路維持作業]

- ・ 一般国道の片側車線を路肩規制し、車道際の雑木の伐採作業を行っていた。
- ・ 道路の反対側に倒木する計画で作業を行っていたが、予想外の方向への折れ方および立木へのワイヤーロープ固定位置が低かったため、ワイヤーロープを中心にして木が反転し車道側に倒れた。
- ・ 反対車線を走行してきた4 tタンクローリーの運転席屋根に伐木が直撃し、破損させた
- ・ 事故処理で約50分間にわたって上下線通行止めとなった。



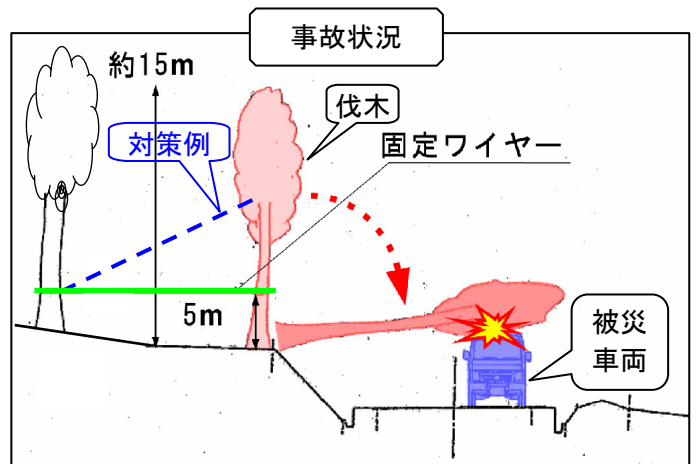
(裏面につづく)

△事故の原因

- ・ 伐木の高さが約15mにもかかわらず、固定ワイヤーの掛ける位置が5mと低かったため、木が倒れる際回転するなどバランスが悪かった。

☆事故防止対策（案）

- 固定ワイヤーを取付けるときは、伐木の高さに応じて掛ける位置を決める。
（例：伐木の重心より上方）
- 伐木する時は、予め伐倒方向を決め、根本に切込みを入れる。
- 伐木する時は、歩行者・車両等の通行を一旦停止させるなど事故回避措置を行う。
- 倒す方向や作業員の配置等の安全作業手順を定め、作業員に対し周知徹底する。



【事件事例③】

居眠り運転で堤防から転落！！

◇事故の概要 [災害復旧作業]

- ・ ダンプトラックが河川堤防を走行中、路肩に接近したので、後続車両の同僚がクラクションを鳴らして知らせたが、ダンプトラックの運転手は居眠りしていて気がつかず堤防より転落した。

△事故の原因

- ・ ダンプトラック運転手の不注意によって起こった事故であるが、居眠りをするなど作業員に対する健康状態の把握が不足していた。



☆事故防止対策（案）

- 朝礼時等で作業員の健康状態が作業に適しているか確認する。
- ムダ、ムリ、ムラの無い作業計画をたて、適宜、休憩・仮眠をとるなど健康管理に留意する。
- 声を掛け合うなど、お互いが意識して注意しあう。
（合図、指差呼称など）



高齢者の心身機能低下に注意

総務省の2006年度労働力調査によれば、建設業就業者における55歳以上の割合は30.2%に達している。

高齢者は知識や経験が豊富な反面、加齢に伴って安全への影響が大きいとされる視力、聴力、筋力、反射動作・バランス能力といった心身機能が低下してくる。

対策の一例として、現場の照明を明るくしたり、警報の音質を周波数の高い音域帯から高齢者でも聞き取りやすい少し低い音域帯に変えるなどの改善は効果的である。

加齢による心身機能低下に配慮した安全対策を行うことで、結果的には労働者全体の安全性向上に繋がる。

【建設業就業者数の年齢階層別推移】

